

ISAHP '99 (第5回 AHP 国際シンポジウム) 開催される

さる1999年8月12日～14日、神戸国際会議場において、第5回 AHP (Analytic Hierarchy Process : 階層分析法) 国際シンポジウムが開催された (第5回 AHP 国際シンポジウム実行委員会〔委員長 名城大学 都市情報学部 木下栄蔵教授〕主催、土木学会・日本オペレーションズ・リサーチ学会共催)。参加者は、これまでのシンポジウムの中で最大規模にのぼり、15カ国と1地域から153人、80編の発表が行われた。

AHPは、評価要因、代替案を階層構造としてとらえる意思決定手法であり、これまで、政策立案、軍事、土木、人事評価、設備管理、システム開発、教育経営などの諸分野における、方針策定や代替案選定の局面で多くの適用がなされてきた。また、近年においては、住民参加型ワークショップにおいても用いられるなど、集団合意形成における有力なツールとして、注目されている。

大会初日には、「きめる社会ときまる社会」と題する名城大学木下教授の基調講演の後、AHPの創始者であるピッツバーク大サーティ教授から、「AHPの7つの柱」と題する招待講演が行われた。氏は、これまで問題を階層構造としてとらえるAHPから、ネットワーク構造で捉えるANP (Analytic Network Process) へと、理論化を進めてこられたが、現在の関心は、これを土台とする新たなニューラルネットワークモデル作りにあるとのことである。

発表セッションにおいては、理論面では、

- 1) 評価要因、代替案間の従属関係をも考慮するANPとAHPとの比較、
- 2) AHPにおいて伝統的に適用されてきた固有ベクトル法の新たな理論的意味付け
- 3) 集団意思決定ストレス法と区間AHP法との関係づけ
- 4) 総当たりの一対比較法と特定代替案を基準とする評価手法との比較
- 5) 主観的評価における評価尺度のありかたについての見直し
- 6) AHPとロジットモデルとの理論的關係
- 7) AHPとゲーム理論との理論的接合

などについて内外の研究者による積極的な討議がなされ、適用面では、教育法及び交通、地域開発、経営、労働等広範囲にわたる実証研究について、熱心な議論があった。

今回のISAHPでは、これまでにない試みとして、理論的にホットな話題を取り上げたパネルディスカッションや特別ゼミナールをセッションに組み込んだが、期待どおり大変示唆に富むディベートが展開された。

また、2日目に行われた懇親会の最後には、サーティ教授のジョークコレクションが披露されるなど、とてもアットホームな雰囲気の中で、世界各国のAHP研究者の交流もなされた。

次回第6回はスイスで開催される予定である。

なお、若干部数プロシーディング (1部3000円) の残部があるので、ジャスティック・パーク(榎藤本政博氏 (06-6310-6117) まで問い合わせされたい。 (中西昌武 名古屋経済大学)